

エコチル調査：追加調査

「学童期の聴覚：選択的聴取の発達」について

=====

平素よりエコチル調査にご協力いただきありがとうございます。

学童期検査にお越しくくださる保護者様に、学童期検査とは別に、新たな追加調査「学童期の聴覚的な情報処理能力の発達に関する調査」へのご協力をお願い申し上げます。

なお、本調査は小学2年生対象の学童期検査の追加調査で実施したものと同一になります。実施の目的は前回と同じとなりますが、お子さんにもう一度参加いただくことで得られるデータは、一人一人の4年間の変化を知ることができる貴重なものとなります。

対象者は、同志社大学赤ちゃん学研究センター（以下当センター）に来館されるお子さん（11～12歳）です。

ご協力いただきたいのは聴力測定です。といってもよくある「どれだけ小さな音を聞く」ことができるかの聴覚測定とはちょっと違います。廻りの音に「邪魔されずに聞きたい音を聞く」、すなわち選択的聴取と呼ばれる聴力の測定です。この聴力は発達が遅く海外の研究では小学校の高学年になっても成人とくらべてかなり低いことが報告されています。なぜこんなにゆっくり発達するのでしょうか。その理由もまだよくわかっていません。エコチルキッズのみなさまに測定に参加していただければ、日本の子どもたちの選択的聴取は海外と同じようにゆっくり発達するのか、そしてそもそもなぜ発達がゆっくりなのかを明らかにできるのではないかと期待しています。以下、本調査についての概要を説明いたします。

<目的>

- 本研究の目的は、日本の子どもたちの選択的聴取の発達を知り、その発達を支える背後の仕組みを明らかにすることです。

<対象となる方>

- 対象者は、エコチル調査学童期検査で当センターに来館されたお子さん(11～12歳)です。

<調査期間>

- この研究は、当センターにおいて、「研究の実施が承認された日」から2027年3月31日にかけて実施される予定です。ただし、参加者の方に研究に直接参加していただくのは学童期検査に参加された当日のみです。

<ご協力いただく内容>

- この調査では、それぞれ5、6分程度の選択的聴取の課題を2種類、1、2分程度の耳音響放射課題への参加をおねがいしています。
- 選択的聴取の課題では、参加者にヘッドホンを被ってもらい、本人にとって聞き取りやすい音量でヘッドホンから流れる音声がどう聞こえたかを口頭で回答してもらいます。
- 耳音響放射の課題では、片耳ずつ30秒ほどイヤホンのような専用の装置を使って小さな音を聞いてもらいます。その時に耳の奥から帰ってくる音を計測します。

<個人情報の取り扱い>

- いただいたご回答は個人情報とは切り離し、どなたの回答か分からない状態に（匿名化）して厳重に保管し、研究に使用します。

<不利益について>

- 本研究への参加に伴い、基本的に健康被害等の危険が生じる可能性はありません。調査中お子さんの様子を観察し、精神的ストレスになっていると思われる時は、中止いたします。保護者の方の判断で中止していただくこともできます。

<エコチル調査本体調査の情報・データ>

- いただいたご回答は、エコチル調査本体調査にてこれまでにご提供いただいた情報と照合・連結し、研究に使わせていただく場合があります。その場合も、個人情報を取り除いた形で番号を付すなどして照合・連結を行います。

<データの保管>

- ご提出いただいた調査票及び同意書は、研究終了後5年を経過した日又は当該研究の結果の最終公表後3年を経過した日のいずれか遅い日まで、当センターが責任をもって保管し、その後、本学が定期に行っている機密文書の回収にて処分します。個人情報を取り除いたデータは、当センターで新たな研究者が異なった目的で分析、発表できるように保管、管理いたします。

<参加の自由>

- 本調査への参加は自由です。回答を行わなくても、今後のエコチル調査参加において不利益を被ることは一切ございません。また、いつでも参加同意の撤回を行うことができます。

=====

本調査に対する問い合わせ先：

〒619-0225 木津川市木津川台4丁目1-1

同志社大学赤ちゃん学研究センター

准教授 加藤正晴